

北海道文教大学

後援会報

No. 10

CONTENTS

後援会活動報告	1
理事長・学長挨拶	2
就職課便り	3
〈後援会文庫〉図書課から	4

平成25年3月1日(金)

発行責任者 遠山英行
発行係 〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
北海道文教大学事務局学務部学生課内
北海道文教大学後援会 TEL0123-34-0011

後援会活動報告

北海道文教大学後援会会長 遠山英行



会員の皆様には日頃から後援会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
本号では、後援会事業のうち主な事業の進捗状況についてご報告させて頂き、ご理解を賜りたいと思っております。

昨年未に行われた第四十六回衆議院議員総選挙において国民は新たな選択を求め、安倍新政権が発足しました。長引く円高とデフレスバイタルからの脱却を目指して、金融緩和、機動的な財政出動、民間投資を喚起する成長戦略という三つの政策を毛利元就の三本の矢に例えて経済の立て直しを図り、それらが諸外国からも評価され期待感が高まっております。

就職氷河期と言われて久しいですが、大学生の就職状況が好転して行くことに繋がっていくことを願っております。北海道文教大学にとって平成二十四年度は鶴岡学園創立七十周年という節目の年に当たっております。少子化に伴う受験人口の減少によって、全国の大学の五割弱が定員割れをおこすという厳しい状況にあります。

北海道文教大学は、地方都市という厳しい環境下において、進学校といわれている高校からの学生が多数を占め、優秀な人材活用の元で全国の大学就職ランキング二十三位という輝かしい成果を挙げていることに敬意を表したいと思います。

このことは、鈴木武夫学長以下、理事者・教職員が一丸となつて、優秀な学生を社会に輩出すべく日々邁進し、地域から信頼される学園を目指してきた成果の表れであると思っております。

後援会としては、アベノミクスの三本の矢の如く、学生・大学・後援会が三位一体となって北海道文教大学の充実・発展に寄与できるように、大学と足並みを合わせながら後援会事業を展開していきたいと思っております。

○吹奏楽器部楽器整備について
大学側から、吹奏楽器部の計画的な楽器購入等に関して年間五十万円の継続助成をお願いしたいという要請がございました。

吹奏楽器部へは、学生活動助成として文化・体育助成を実施しておりますが、入学式や学位記授与式などの行事において学歌吹奏、大学祭の演奏会等活動が評価できること。
定期演奏会を開催して、市民との交流を積極的に図り、大学と地域の架け橋的な活動が認められること。
吹奏楽器部の活動が、大学の地位向上や広報宣伝に寄与していること。

以上の理由から、ワーキングや役員会で協議した結果、要請に応えていくことを決定させて頂きました。
なお、編成状況や楽器購入程度等を勘案して、どのタイミングで継続助成を打ち切るかを大学と調整しながら判断していきたいと考えております。

○父母懇談会について
平成二十一年四月に開学以来、大学と後援会が協力して、毎年ほぼ同じ形態で父母懇談会を事業化し開催してきました。大学・父母・学生間の相互理解を図る三位一体の教育手段として一定の評価を収め、評価されてきた事業であります。

平成二十四年六月二十九日に大学から二十四年度の父母懇談会の開催に関して、申し入れがあり、要約を以下に記載いたします。

「北海道文教大学は平成二十一年四月に外国語学部、学部、三学科をもって開学しました。開学当時は大学の知名度が低く、施設設備も十分とは言えない状況の中で、特に新入生の確保を最重点課題と位置付け、多様な対応、対策を行ってまいりました。父母の皆様のご理解とご協力を頂き、後援会が組織され、大学と密な連携の元にご学生の福利厚生等に各種のご支援を頂いてきたところで、開学以来、父母懇談会を大学と後援会が協力して、毎年ほぼ同じ形態で開催され、大学・父母・学生間の相互理解を図る三位一体の教育手段として一定の効果をお納め評価されてまいりました。

開学から十三年を経て、大学が改組・改革を重ねた結果、在校生も三二〇余名となり私立大学協会北海道支部十二大学の中で七番目となっていることや受験生のレベルも上がり、現在の入学生は進学校といわれる高校からの学生が多数を占める状況になっております。

こうした経緯を踏まえ、昨年度の実施方法、成果等を精査して二十四年度から大学で企画立案して実施することといたしましたので、ご理解頂きますようお願いいたします。」

三役で検討した結果、大学の意向を尊重して了承することとなりました。既に事業化して予算を付けていたものでしたが、第二回ワーキンググループと第二回役員会において説明させて頂き、各役員より了解を頂いております。

惠庭キャンパスで開催される父母懇談会時に実施している金券の配布(大学祭の模擬店で使用できる金券)については、金券を配布することで大学祭模擬店により多くの父母の参加が見込まれ、学生との触れ合い効果が期待できることから来年度も事業化していくことを役員会で決定させて頂きました。

○図書費の増額について
更正予算作成時に、後援会文庫整備事業として新たに二百万円を追加しました。目的は、先に後援会報九号でお知らせ致しました国家試験問題集と図書購入です。(各々、百万円)

後援会文庫整備事業として、毎年二百万円を予算付けしていますが、執行率は百%となっております。広い分野のより多くの専門書を必要とする学生ニーズに応えるべく、役員会にて決定しました事を報告させていただきます。

○後援会会則の一部修正について
会則の一部に、条文扱い上の間違いや実態に合わない表現があることから以前見直しし必要性を感じておりました。運びとして、まず法規専門家へ依頼して修正し頂き、ワーキンググループに諮り、再修正を加えた後、更に大学側と摺合わせを行って第二回役員会に諮りました。

後援会活動の原点である会則の修正が、今後の後援会活動により良く反映されるようにしていきたいと思っております。

○サークル会館内の備品整備について

サークル会館内に、流し台・電気温水器・製氷機を設置し、椅子六脚・テーブル一台配置することが決まりました。学生の要望に応える形で実現に至ったもので、整備までに時間を要しましたが、有効活用を期待しております。

キャンパスウォッチングの際にも、学生と話し合いを持って機会があり、ある程度学生の要望を把握することができました。学生課での調整が必要になりましたが、今回のサークル会館内の備品整備事業を通して、後援会が学生の声に耳を傾けることの重要性を再認識しました。

○平成二十四年度キャンパスウォッチングについて
平成二十四年七月十三日に役員十名の参加で、午前十一時から午後三時まで行いました。八号館図書館ロッカー室、サークル会館、旧学友会室等を回り、設置要望が出されながらも具体化していなかった製氷機設置や給湯設備や流し台の取り付けなどがキャンパスウォッチングを契機に取り付けに向けて進んでおります。

旧学友会室は、学祭時期には学友会の作業所としての役割、あるいは軽音楽部の練習場等、いまだに用途は広い建物となっておりますが、床の一部が歪んでおり、安全面で問題が出てきそうな部屋でもありました。

キャンパスウォッチング解散後、三役で旧学友会室を見て検討した結果、ユニットハウスの見積もりを出して頂き、役員会で検討していくところまで確認するに至りました。

その後、鶴岡学園創立七十周年記念助成額をユニットハウスに充て、大学側と協議を重ねて購入・設置に向けた準備に取り掛かっているところ。

キャンパスウォッチング終了後、事務局長・事務局次長・教務課長にご出席をお願いして、懇談させて頂きました。出席した各理事より、大学設備に関する感想や、大学に対する要望事項等をお話する機会を得ることができ有意義なものとなりました。

今後、大学と後援会が歩調を合わせ、コミュニケーションを上げていく中で大学の充実・発展を図っていくことが双方で確認されました。

○卒業記念助成事業について
卒業される学生に対して、卒業記念品を毎年贈っております。今回は見本品を役員で見ながらご意見を頂き検討した結果、去年と同様のシステム手帳に決めました。

紅白饅頭と合わせて三百万円を要する卒業記念助成事業であることから、会員の皆様の声を活かして、利用頻度の高い物を贈るように工夫していきたいと考えております。

以上、報告させて頂きました。ご協力頂いた皆様、後援会活動をお知らせして、ご理解とご協力を得ることを目的としております。後援会活動のマンネリ化を防ぐべく取り組んでおりますが、いろいろな視点から会員の皆様のご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。



理事長・学長挨拶

流動化社会のなかでこそ
本物の能力と人間関係形成力が

学校法人 鶴岡学園 理事長
北海道文教大学 学長

鈴木 武夫



世界の国際化と情報化の急速な進展の副産物として、社会全体に流動化の強い波が押し寄せていることは多くの識者が共通して指摘するところであります。経済や政治も、雇用や文化や価値観も流動化の一途をたどっております。個人によって立つべきものと思われていた国家や地域社会や家庭までもが、その根底において流動化の波に洗われているとされます。

この国のありようを見つめてみますと、世界でもトップレベルといわれた経済界も、数年前なら超一流企業であった電機産業が流動化社会の変化に戸惑い企業体質の改善が遅れたために、苦境に立たされたりしていることは周知の事実であります。政治におきましても左から右へと大きく揺れ動くさまを、目の当たりにしたばかりであります。

雇用の面におきましても、昨年度の大学生の新卒就職の三十パーセント以上が非正規雇用であるとの調査報告もあります。

しかし振り返ってみますと、いつの世も流動のない社会などあり得ないものなのです。社会を形作る主たる要因である経済の基本構造が流動によって成り立っているものなのです。社会の経済活動は文明に影響を与え、文明の変化が環境に影響を及ぼします。

国際化や情報化が、その流動化の速度を一層速めたことは確かではありますが、これが社会の活力を生んでいることも事実であります。この動きは更に加速されることはあれ、押し留められることはありません。

ではそれによって形成される高流動化社会にどう立ち向かわなければならぬかが問題になります。

そこで問題となるのが、社会が本当に必要な能力を育成する教育システムの構築であります。そしてもうひとつが急速に変化する社会の中で自らの力量を正当に発揮できる人間関係形成力の養成であります。本学の教育が掲げる「社会に貢献する実学教育・社会人基礎力を充実する教養教育」の目指すものは、開学以来一貫してまさにこれに込めることにあるのです。有難いことに学生諸君のたゆまぬ努力と教職員の方々の力強い支援により、全国的にも注目される高い就職内定率を達成し続けていることは、流動化する社会からも高い評価を受けていることの証であると誇りに思うものであります。

後援会の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援をお願い申しあげる次第であります。



就職課便り

三年生(二〇二四年三月卒業)の就職活動のスタート

二〇二四年春の採用に向けた主要企業の会社説明会が十二月一日解禁され、大学三年生の就職活動が本格的に始まりました。

〇八年のリーマン・ショック以降、採用を抑制してきた企業が新卒採用に前向きになり、求人は持ち直しつつあると言われています。一方、輸出の減速に伴う景気の悪化で求人が減る恐れもあり、学生にとって厳しさは続きそうです。

今年は、経団連の方針変更で、就活期間が約二か月短くなつてから二年目となります。道内は、昨年度まで、私立大学が、年明けの二月以降に企業説明会を開催することを申し合わせていましたが、今年度から二か月早めた為、全ての大学三年生が一斉の就職活動のスタートラインに立つこととなります。

ことも発達学科の現三年生は、一期生ですが、一般企業を目指す学生を中心に、十一月からの就職講座を受講しながら、就職活動が始まっています。

採用試験に向けた履歴書を三月から受付け、本番の採用面接を四月中から実施する流れは、例年と大きく変わらないと思います。

新卒者に対して、年、何回かの選考試験を実施する道内企業が増えてきています。

したがって、早い時期に内定を取り損ねても、諦めず挑戦することが、大切です。

政府は、若年者雇用緊急対策の一環で、卒業後三年以内の既卒者を二〇二二年春採用から新卒者と同様に扱うよう経済界に要請し、既卒者採用が全国的に、特に大手企業に浸透してきていますが、どうしても、経験を何年間積んできた中途採用と比較してしまう現実もあるようです。

これらのことから、就職浪人をさげ、「必ず、卒業直後の四月から入社する」強い意志を持って、就職活動を続けて欲しいです。

看護学科の取り組み

四年生にとって、この一年間は就職活動の他にも、病院実習や国家試験対策などやらなければならぬことが山積みです。時間を有意義に使って活動することが大切です。

その為に時期別にやるべきことを整理して、計画的に考えることが必要です。

就職活動に向けて、四年生の一人ひとりの学生に対し、学科や就職課が期待してきている内容について、まとめたいと思います。

①効率良い活動をする為に一年の流れを知って年間のスケジュールを立てる。

②まず自分を見つめ直す。

自分が何を考え、何を目指しているのかを知る為に自己分析を行う。

これまでの経験や病院実習での体験を振り返り、自分が関心を持ったこと、楽しかった経験、辛かった経験を思い返し、自己を見つめ直すことから始める。

③病院施設などのことを知る。

病院は、機能や役割、設立母体などさまざまに分類されている。

自分に合った病院を選択する為にも種類や分類を知っておくことが必要である。何を基準にして、病院探しを行なうのか、早い時期に明確にしておく。

④情報を収集する。

多くの情報を収集することが必要である。看護方針や新人教育体制、勤務条件などの視点から希望に合ったものを探していく。

⑤実際に、自分の目で、病院を確かめる。

職場の雰囲気や働く人の声が聞ける見学会や説明会を積極的に利用して病院そのものを理解する。

⑥病院・施設を絞り込む

早い時期から、情報を集めて分析し、自分なりの病院選択基準を持って、応募先を選ぶ。

看護学科の教員と連携し、看護師を目指す全ての学生への対応として、一期生の取り組みを基盤に、二期生の現四年生に対し、春休み二日間の就職講座に加えて、看護学生合同就職説明会の参加を計画、実施しました。その内容は次の通りです。

看護学生合同就職説明会

学内での就職講座後、学外での二回の合同就職説明会を就職実践活動と位置づけ、看護学科四年生全員が参加しました。

四月二十四日、二十九日両日共、学生の他に、多数の看護学科教員、就職課職員が参加しました。当日は恵庭在住の学生は、往復共、合同就職説明会主催の就職情報会社が用意したバスを利用しました。会場に着いた学生は、本学が予約してある部屋に集まり、改めて、就職講座で学んだ面談の仕方やマナーなどを確認し合い、その後、一つでも多くの病院

の内容を知りたいと考え、各自が、希望のブースを積極的に回りました。

本学の多くの学生は、七箇所以上の病院からの情報を収集しようです。このことは、興味を持つ多くの病院を比較し、その中から特定の病院を選択したい気持ちからだと思えます。

病院合同就職説明会は、新任看護師研修体制、病院の風土や特色、福利厚生など、用意していた内容を質問し、学生にとっては、インターンシップ、病院見学会に合わせて、目指す病院に向けて知る貴重な学習体験になったものと思われまます。

「希望の病院を選択する大切なポイントが明確になった」「目指す診療科が決まった」との声が多くの学生から聞かれました。

学生にとっては、就職講座で学んだ知識を活用しながら、挑戦する希望病院を選択する為の意義のある二日間であったようです。





〈後援会文庫〉 図書課から

今年度も図書館資料充実のため「後援会文庫」に寄贈していただきありがとうございます。

鶴岡記念図書館は、図書十七万冊、雑誌八〇〇タイトル、視聴覚資料五〇〇〇タイトルを所蔵し、一日平均約二六〇人(在学生の半数以上)が利用する活気ある図書館です。本学では開館当初から図書館の情報化に努めており、PCコーナーには情報検索用パソコンを備え、本学が契約している電子ジャーナルや電子ブックを図書館ホームページ上から閲覧することができ、また、今年度から第二閲覧室をラーニングコモンズに改め、複数の学生が図書館資料を活用し、討論を重ねながら共同で論文を作成できるようにいたしました。

今年度のご援助により書籍二六三冊と電子ブック及び図書装備のための用品等を購入させていただきました。電子ブック『人体局所解剖学全五巻セット』は高価な図説ですが、臨地実習に出る学生の事前学習に大変役立つと思います。

また、後援会から特に要望のありました各種国家試験や英語検定や中国語検定などの国家試験対策の書籍については、問題集の充実を図るとともに複数の学生が同時に閲覧できるように同一の問題集を複数購入しました。このことにより、予約なしに問題集の貸出しができ、学生が感謝しています。

本学図書館は研究支援および学習支援の機能を持つ図書館として、資料の整備と充実、そして図書館の学修環境の整備を進めてまいりますが、今後とも、図書館へのご支援よろしくお願いたします。

